

令和6年度 公共事業評価委員会 議事概要

日 時：令和6年11月11日（月） 13：30～15：15

場 所：徳島県庁10階 特別大会議室

出席委員：山中会長、奥嶋委員、後藤委員、橋本委員、松重委員

【再評価番号1 農地中間管理機構関連農地整備事業 長生中央地区】

（橋本委員）

本地区の今後の担い手の展望を教えてください。

（生産基盤課）

事業着手前に担い手を決定した上で進めており、本地区においては、8名が担い手として耕作をする計画となっている。現在、工事が完了した区域については、2名の担い手が耕作している。

（奥嶋委員）

維持管理費を総費用ではなく、便益として計上しているのはなぜか。また、維持管理費節減効果がマイナスとなっているのはなぜか。

（生産基盤課）

農林水産省農村振興局の効果算定マニュアルに基づき算出している。本マニュアルによると、維持管理費は便益に含めることとなっている。また、維持管理費節減効果がマイナスとなるのは、ポンプ機場などの施設整備により、従来よりも維持管理費がかかるためである。

（山中会長）

ポンプ機場などの維持管理費は誰が支払うのか。

（生産基盤課）

基本的には共同施設として、土地改良区がまとめて支払う。

（山中会長）

整備した施設は全部、土地改良区に移管されるのか。

（生産基盤課）

水路などは土地改良区、道路などは市町村が管理する。

（山中会長）

土地改良区が支出する費用のため、便益で算定していると思うが、公共施設の維持管理費は、費用に含まれるべきですね。

(生産基盤課)

本地区については、公共施設の維持管理費は計上していない。

(松重委員)

事業実施により、地元小学校との環境教育やふるさとづくりに活用されているかについて、情報があれば教えてほしい。

(生産基盤課)

本事業とは直接は関係ないが、小学生に対し田んぼの生き物調査を実施したり、多面的機能支払交付金を活用して、地域で花を植えたりしている。

(松重委員)

そのような間接的な波及効果も今回の便益の中に含まれているのか。それとも間接的な波及効果は計算できないものとして考えるのか。

(生産基盤課)

多面的な効果は中々数値として算定しづらく、本地区の便益には含まれていない。

(山中会長)

本地区の担い手は個人なのか。法人でなくてもいいのか。

(生産基盤課)

本地区については、担い手は個人であるが、法人が担い手となっている地区もある。

【再評価番号2 耕地地すべり防止事業 相生2期地区】

(山中会長)

本地区の4工区のうち、竹ヶ谷下工区だけが他の3工区と離れているが、一帯として事業認定してもらえたのは何か理由があるのか。

(生産基盤課)

旧相生町地域で認定されている。

(橋本委員)

中山間地域は、高齢化率が高く、後継者が中々いないという営農状況を考えると、仮に災害が発生した場合、農地復旧はできないという認識でよろしいか。

(生産基盤課)

地域の実情としては高齢化は進んでいるが、ケイトウやシャクヤクなど、地域にあわせた営農を行っている。近年は復旧とあわせて同時に改良工事を実施する創造的復興と呼ばれる復旧がある。営農意欲のある方がいる地域は、引き続き営農を続けていただくよう、復旧を講じていく。

(橋本委員)

事業採択時に、農地の営農状況は確認するのか。

(生産基盤課)

営農状況を勘案しながら、対策工の優先順位をつけて事業を実施している。

(奥嶋委員)

被害軽減効果の算定の際、どのレベルの降雨災害を想定されているのか。

(生産基盤課)

地すべり対策の被害軽減効果については、特に何年に1回の降雨災害は想定しておらず、地すべりによる人家等の被害を計上している。

(奥嶋委員)

想定よりも多くの雨が降った場合、同じ対策をしても土砂災害が発生することがあり得ると思うが、それでも便益は算定できるということか。

(生産基盤課)

この効果の算定については、地すべりの効果算定マニュアルに基づき算定しており、評価期間（工事期間＋50年）において、地すべり防止施設が安定的に機能しているかどうかを判定のもと、効果を算出している。

(松重委員)

進捗グラフの「現在までの状況」に、他の3工区は地元調整に時間を要しているためと記載されているが、どのような理由で時間を要しているのか教えて欲しい。

(生産基盤課)

工事車両が入るための進入路等の調整に時間を要している。

(山中会長)

他の3工区には、とりつけ道路があるということか。

(生産基盤課)

施工場所によっては、モノレールの設置が必要な場合もある。その場合、モノレールのレール設置等に地権者の了解が必要になる。

【再評価番号3 老朽ため池等整備事業 第1金清池地区】

(山中会長)

本地区の公共の災害防止効果というのは、道路の再整備費みたいなものなのか。

(生産基盤課)

そのとおりである。道路の復旧経費を見込んでいる。

(山中会長)

交通途絶が起きると思うが。

(生産基盤課)

本地区では、そこまでの経費は見込んでいない。

(奥嶋委員)

現在、堤の改修中だが、現段階でも効果は出ているのか。完成しないと効果は一切出ないのか。

(生産基盤課)

効果については、最大限発揮されるのは、堤が完成した時だが、施工完了箇所については補強がされ、安全度が増しているため、効果が全くでていない訳ではない。

(橋本委員)

本地区の近くでスマートICの建設中だが、その分の効果も災害防止効果等で計上しているのか。

(生産基盤課)

スマートICは、現在施設がないため、効果としては反映していない。

(後藤委員)

ため池が満水になる可能性はあるのか。また、集水区域が広いと、大雨時に一気に水が集まる可能性も十分考えられるが、ため池から水が溢れることはなかったのか。

(生産基盤課)

水を使う時期では、ほぼ満水が保たれている状況である。事業が完了するまでは、市が作成しているハザードマップ等のソフト対策を組み合わせながら、対策を講じている。

(山中会長)

豪雨によって、ため池が決壊することもあるのか。

(生産基盤課)

豪雨時に、洪水吐等で余剰の水が流せなければ、堤に圧がかかって決壊する恐れがある。もし流下させる口が狭い場合は、洪水吐を大きくする等の対策を講じていく。

【再評価番号6 中山間地域農村活性化総合整備事業 那賀川西部地区】

(奥嶋委員)

本事業によって、小さい車両から大きい車両が通行可能になったとのことだが、走行経費削減効果としてどのように計上しているのか教えて欲しい。

(農山漁村振興課)

本地区は2トンの車両を計画しており、大きい車両になることで運搬回数が減る。小さい車両と大きい車両との運搬経費の差を計上している。

(山中会長)

主に労働時間なのか。

(農山漁村振興課)

労働時間と機械経費である。車両を大きくすると燃料費等が高くなるが、トータルで使う時間や運転手等の労働時間が少なくなる。

(山中会長)

現在は何で運んでいるのか。

(農山漁村振興課)

主に軽四輪と特装運搬車と思われる。

(後藤委員)

進捗グラフを見ると、計画よりも進捗がいいのに令和8年度完了となっている。早く事業完了することはないのか。

(農山漁村振興課)

残りは農道の拡幅だけであるが、土地を部分的に買収しなければならない箇所があり、現在、買収の手続き中である。そのため、令和8年度まではかかってしまう。

(橋本委員)

災害防止効果について、平成30年の台風の被害を受けて、この辺りを国が整備していると思うが、本地区の災害防止効果が低くなっているのに関連はあるのか。

(農山漁村振興課)

国土交通省実施の(那賀川の)引堤工事が完成しているが、本地区と離れているため、引堤の効果は現れていないと思われる。本地区の災害防止効果は、排水路整備による湛水被害防止効果のため、効果は小さくなっている。

【再評価番号 7、 林道開設事業 高越二戸線】

【再評価番号 8、 林道開設事業 世戸谷栗山奥線】

(松重委員)

手入れがされていない木の値段は便益計算に反映されているのか。また、徳島県産のスギ材は主に何に使われているのか。

(森林土木・保全課)

市場での木材価格を反映している。また、徳島県産のスギ材は、主に木造住宅の部材や合板・繊維版に活用されている。

(松重委員)

事後評価になるのかもしれないが、高度経済成長期に植えた木が収穫できる時期になってきているため、次を見据えて、どのように整備を進めていくかを、管理も含め、検討していく必要があるのではないかと思います。

近年、徳島県産のスギ材を使っているというポスターをよく見る。県民として、木育に力を入れているのだなと感じているので、今後も続けてほしい。

(橋本委員)

今後も国産材需要が堅調になってくるとの見込みなのか。

(森林土木・保全課)

大型製材工場の新たな稼働計画があり、今後の木材需要の増加に対応していく。

(橋本委員)

進捗の遅れは災害以外にどのような要因が考えられるのか。

(森林土木・保全課)

林道開設工事は、起点及び終点の 2 工区から一方向の施工となり、数カ所からの同時施工が難しい路線が多いことも要因の 1 つである。

(山中会長)

途中で使える木がどんどん大きくなって、使い勝手の悪い木材にどんどん変わりつつあるという状態で、早く出せるところから出すべきでは。木材生産に係る便益の割合が高いところが事業効果が高いところなので、そこが優先されるべきで、効果が低いところをどんどん実施する必要があるのか。林道を起点・終点でつなげる必要はあるのか。もう少し短期的な便益を見ながら、どこまで推進するかを考えた方が良いのではないかと。

(森林土木・保全課)

この地域にも森林資源が相当あり、地元からの要望もある。短期的な便益については、便益の期間をどのように算定するか改めて検討し、説明できるよう心がける。

(山中会長)

木材生産の将来計画を見据えて、林道の整備計画を考えていただきたい。

【意見集約・まとめ】

(山中会長)

林道の今後の整備計画にあたっては、木材生産状況を検証することを附帯意見とし、審議の結果、農林水産部 8 件は「継続」でよいか。

(各委員)

異議なし。